

全校朝会「心のスイッチ」 2/17

「心のスイッチ」という詩を紹介します。

「心のスイッチ」 東井 義雄（とうい よしお）
人間の目は ふしぎな 目
見ようという 心がなかったら 見ているも見えない
人間の耳は ふしぎな 耳
聞こうという 心がなかったら 聞いているも 聞こえない
頭も そうだ
はじめからよい頭 わるい頭の区別が あるのではないようだ
「よし やるぞ!」と 心のスイッチはいると
頭も すばらしい はたらきを しはじめる
心のスイッチが 人間を つまらなくもし すばらしくもしていく
電灯のスイッチが 家の中を明るくもし 暗くもするように

すてきな詩ですね。

私たちは、たくさんの可能性をもって生まれてきました。学者になる可能性、音楽家や画家になる可能性、スポーツ選手になる可能性もあります。その可能性から、どんな自分にしていくか、“世界でただ一人の私”を、どんな自分につくっていくか、その責任者は、みなさん自身です。

「よしやるぞ!」という心のスイッチを入れて、すばらしい自分をつくりあげてほしいと思います。スイッチを入れないで、自分の力を、眠らせてしまってはもったいないですね。

では、心のスイッチはどうしたら入るのでしょうか。そのきっかけは何でしょうか。

それは人のせいにしないことです。誰かが自分のスイッチを入れるのを待っていてはいけません。自分のスイッチは、自分でしか入れることができないからです。自分が自分をつくっていく責任者なのですから。

3学期も、あと一ヶ月です。今、心のスイッチを入れて、すばらしい自分をつくっていきましょう。